

2023年 昼間部

科 目		あん摩マッサージ実技			
科目分野	専 門 分 野	学 期	前 中 期		
学 年	2 年 次	担当教員	小俣 文華(治療院経営2年)		
単位数	2 単 位		本多 剛(治療実務20年以上)		
【授業の概要】 授業形態 実 技					
<p>・マッサージ実技 タルクおよびオイルを使ったマッサージの基本手技、姿勢、体重移動を学び、臨床に活かせるように練習する。</p> <p>・あん摩実技 あん摩の基本手技のうち、揉捏法、叩打法、曲手の基礎を解説して実践する。揉捏法、叩打法、曲手を駆使したあん摩施術を、座位、側臥位、伏臥位、仰臥位、それぞれについて解説し、実践する。</p>					
【到達目標】					
<p>・マッサージ実技 上肢・下肢に対し、マッサージの基本手技で施術が出来る。</p> <p>・あん摩実技 座位、側臥位、伏臥位、仰臥位の相手に対して、揉捏法、叩打法、曲手を適切に施すことができる。</p>					
回	授業計画		回	授業計画	
1	授業の進め方、マッサージの基礎、滑剤の取り扱い		16	揉捏・叩打・曲手の基本練習 ①	
2	タルク、仰臥位、下腿部(前側・外側)		17	揉捏・叩打・曲手の基本練習 ②	
3	タルク、腹臥位、下腿部(後側)		18	座位 肩背部	
4	タルク、仰臥位、大腿部(前側・内側)		19	座位 肩背部・頸部	
5	タルク、腹臥位、大腿部(外側・後側)		20	座位 上肢 ①	
6	タルク、仰臥位・伏臥位、足関節(前側・後側)		21	座位 上肢 ②	
7	タルク、仰臥位・伏臥位、膝関節(膝蓋部)		22	臥位 腰部 ①	
8	タルク、仰臥位・伏臥位、膝関節(膝窩部)		23	臥位 腰部 ②	
9	タルク、下腿～大腿部の復習		24	側臥位 肩背部	
10	タルク、座位、上肢(前腕部)①		25	側臥位 肩背部・頭頸部	
11	タルク、座位、上肢(前腕部)②		26	側臥位 上肢	
12	タルク、座位、上腕部(前側・後側・三角筋)		27	側臥位・仰臥位 下肢 ①	
13	タルク、座位、上肢(手部)		28	側臥位・仰臥位 下肢 ②	
14	タルク、座位、肘関節		29	仰臥位 胸腹部	
15	タルク、手部～前腕部の復習		30	仰臥位・座位 頭部	
教科書 参考書等	あん摩マッサージ指圧実技(基礎編) 医道の日本社 配布プリント				
評価方法	<p>・マッサージ実技 出席状況で評価する。</p> <p>・あん摩実技 出席状況で評価する。</p> <p>※出席状況の評価 欠席-6点、早退・遅刻・見学-2点とする。</p>				
成績評価指標	<p>1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。</p> <p>2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。</p> <p>(1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満</p>				

2023年 昼間部

科 目		リハビリテーション医学		
科目分野	専門基礎 分野	学 期	前中 期	
学 年	2 年次	担当教員	石塚 洋之	
単位数	2 単位		実務経験	16年
【授業の概要】 授業形態 講義				
リハビリテーション医学の構造と各分野の方法を学びます。各種障害評価と障害・疾患に対するリハビリテーション。リハビリテーションの流れを学びます。				
【到達目標】				
リハビリテーション医学の構造を理解することによって、医療機関でどのような職種が患者に対して何を行っているのか。また、われわれ指圧師が患者に対して医療のどの分野で活躍することができるのかを理解することができます。				
回	授業計画	回	授業計画	
1	ガイダンス／語源から見るリハ／歴史から見るリハ／リハ理念／リハ医学の医学全体の位置づけ	16	脊髄損傷のリハビリ(前半)	
2	リハ医学の対象／障害のとらえ方／障害のとらえ方の例	17	脊髄損傷のリハビリ(後半)	
3	リハ分野／リハチーム／理学療法：運動療法	18	切断のリハビリ／D.その他の小児疾患	
4	理学療法：運動療法(続き)／関節可動域訓練	19	脳性麻痺(前半)	
5	筋力増強訓練／筋力増強のいろは／筋協調性訓練／ROM-TとMMTの臨床的応用	20	脳性麻痺(後半)	
6	応用的な運動療法(杖歩行・歩行訓練)／治療体操	21	その他の小児疾患 進行性筋ジストロフィー／関節リウマチ	
7	物理療法(理学療法の続き)	22	関節リウマチ	
8	言語聴覚療法／作業療法	23	パーキンソン病／呼吸器疾患	
9	装具療法と義肢	24	心疾患／五十肩・腰痛(前半)	
10	リハビリテーション看護／障害の評価	25	腰痛(後半)～変形性膝関節症(前半)	
11	3)筋力テスト 粗大運動評価／運動の協調性テスト	26	変形性膝関節症(後半)～／変形性股関節症	
12	日常生活動作の評価(ADLの評価)／合併症の評価／運動麻痺の評価	27	大腿骨頸部骨折／正常歩行と異常歩行(前半)	
13	ここまでの復習	28	ここまでの復習	
14	前期期末試験	29	中期期末試験	
15	失行・失認テスト 心理的評価／脳卒中のリハビリテーション	30	第三章 運動のしくみ／運動学の基礎・姿勢とその異常	
教科書 参考書等	授業で配布するプリントを使用して学習いたします。			
評価方法	前期、中期各期に定期試験を行う。 リハビリテーション医学授業の各試験の評価を合計／2で評価する。 各期における評価が60点以上で単位を認定する。			
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満			

2023年 昼間部

科目		運動学	
科目分野	専門基礎 分野	学期	前期
学年	2 年次	担当教員	石塚 洋之
単位数	1 単位		実務経験 16年
【授業の概要】 授業形態 講義			
1年で学習した解剖学を基礎に機能的な解剖学を行うと同時に運動学の基礎を学習いたします。 リハビリテーション医学の基礎にも運動学があるため、リハビリの授業にもリンクするような内容でも行います。			
【到達目標】			
解剖学やリハビリなど様々な授業で学習する内容を臨床的に活かせるような内容としていきます。			
回	授業計画	回	授業計画
1	ガイダンス／動きの軸と平面	16	
2	臨床解剖学(筋の逆作用の理解と臨床への応用):腰部筋・殿 部筋・大腿部筋	17	
3	上肢(肩)筋作用(基礎解剖) 筋力学の基礎(肩関節)と臨床応用	18	
4	筋力学から考える回旋筋腱板の機能 関節包内運動と肩甲上腕リズム	19	
5	上肢(肩)肩障害に対するアプローチとそのプロセス:関節可動 域評価／徒手筋力評価	20	
6	運動の種類① 診察における 関節可動域評価	21	
7	運動の種類② OKC(Open-Kinetic-Chain) CKC(closed-kinetic-chain)	22	
8	運動の種類③ isometric/isokinetic/isotonic eccentric-contractionの機能	23	
9	筋力増強のいろは 目的に応じた負荷の設定	24	
10	下肢の運動学 腸腰筋・大腿四頭筋(内側広筋)	25	
11	膝① knee-in-toe-out/knee-out-toe-in	26	
12	膝関節生理学 靭帯機能とScrew-home-movement(SHM)・AMRI/ALRI	27	
13	ここまでの復習とポイント整理	28	
14	試験解説／腰部の運動学①	29	
15	腰部の運動学②	30	
教科書 参考書等	プリントを使用します。		
評価方法	前期、中期各期に定期試験を行う。 各期における評価が60点以上で単位を認定する。		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90~100点 (2)B:80~89点 (3)C:70~79点 (4)D:60~69点 (5)F:60点未満		

2023年 昼間部

科 目		衛生学		
科目分野	専門基礎 分野	学 期	前中 期	
学 年	2 年次	担当教員	本多 剛	
単位数	2 単位		実務経験	治療実務10年以上
【授業の概要】 授業形態 講義				
保健医療を担うあん摩マッサージ指圧師として必要となる基本的な衛生学の知識を身につけるため、衛生学の歴史、健康の概念と予防医学、ライフスタイルと外部環境の健康影響、産業保健、精神保健、母子保健、成人・高齢者保健、感染症対策と消毒、疫学、保健統計について概説する。				
【到達目標】				
衛生学の歴史、健康の概念と予防医学、ライフスタイルの健康影響、外部環境の健康影響、産業保健、精神保健、母子保健、成人・高齢者保健、感染症対策と消毒、疫学、保健統計の概要を述べるができる。				
回	授業計画	回	授業計画	
1	衛生学・公衆衛生学の意義 ①	16	ライフスタイルと健康 ①	
2	衛生学・公衆衛生学の意義 ②	17	ライフスタイルと健康 ②	
3	健康 ①	18	ライフスタイルと健康 ③	
4	健康 ②	19	ライフスタイルと健康 ④	
5	保健統計 ①	20	成人・高齢者保健	
6	保健統計 ②	21	母子保健	
7	疫学	22	学校保健	
8	感染症とその対策 ①	23	産業保健 ①	
9	感染症とその対策 ②	24	産業保健 ②	
10	感染症とその対策 ③	25	環境と健康 ①	
11	消毒法 ①	26	環境と健康 ②	
12	消毒法 ②	27	環境と健康 ③	
13	精神保健	28	環境と健康 ④	
14	中期期末試験	29	後期期末試験	
15	試験返却・解説	30	試験返却・解説	
教科書 参考書等	衛生学・公衆衛生学 第2版 東洋療法学校協会編			
評価方法	中期試験と後期試験で評価する。各期における評価が60点以上で単位を認定する。			
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満			

2023年 昼間部

科目		総合臨床医学(経絡経穴)			
科目分野	専門基礎 分野	学 期	前 期		
学 年	2 年次	担当教員	青木 美稚子		
単位数	1 単位		実務経験	治療院経営5年以上	
【授業の概要】 授業形態 講義					
<ul style="list-style-type: none"> ・取穴、問題演習を通して知識を定着させる。 ・あん摩マッサージ指圧師国家試験の出題基準穴を把握する。 					
【到達目標】					
経絡経穴に興味を持ち、意欲的に学ぶことができる。					
回	授業計画		回	授業計画	
1	ガイダンス、経脈と経絡の概要		16		
2	督脈・任脈		17		
3	手太陰肺経・手陽明大腸経		18		
4	足陽明胃経		19		
5	足太陰脾経		20		
6	手少陰心経・手太陽小腸経		21		
7	足太陽膀胱経		22		
8	足少陰腎経		23		
9	手厥陰心包経・手少陽三焦経		24		
10	足少陽胆経		25		
11	足厥陰肝経		26		
12	予備日		27		
13	試験前まとめ		28		
14	試験		29		
15	試験返却、前期のまとめ		30		
教科書 参考書等		新版 経絡経穴概論 第2版 東洋療法学校協会編			
評価方法		小テスト(50%)および前期期末試験の評価(50%)を合計して評価する。 60点以上で単位を認定する。			
成績評価指標		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90~100点 (2)B:80~89点 (3)C:70~79点 (4)D:60~69点 (5)F:60点未満			

2023年度 昼間部

科目		臨床医学各論 I			
科目分野	専門基礎	分野	学期	前中期	
学年	2	年次	担当教員	笠井 友和	
単位数	4	単位		実務経験 治療院勤務10年、開業23年	
【授業の概要】 授業形態 講義					
<p>施術者が臨床において遭遇する可能性のある疾患について適切に判断し、情報提供を行うことができる知識を身につけるため、代謝栄養疾患、整形外科疾患、血液造血器疾患について、代表的疾患の病態、診断、症状を概説する。授業内に点数が成績評価に反映しない小テストを数回行い学習度を確認する。</p>					
【到達目標】					
代謝栄養疾患、整形外科疾患、血液造血器疾患について、代表的疾患の病態、診断、症状を述べることができる。					
回	授業計画		回	授業計画	
1	授業の進め方、評価方法、整形外科疾患、総論、関節疾患①		16	代謝・栄養疾患 糖尿病①	
2	整形外科疾患、関節疾患②		17	代謝・栄養疾患 糖尿病②	
3	整形外科疾患、形態異常①		18	代謝・栄養疾患 脂質異常症	
4	整形外科疾患、形態異常②		19	代謝・栄養疾患 尿酸代謝異常、その他の代謝異常	
5	整形外科疾患、脊椎疾患①		20	循環器疾患 動脈疾患	
6	整形外科疾患、脊椎疾患②		21	循環器疾患 冠動脈疾患、不整脈①	
7	整形外科疾患、脊椎疾患③		22	循環器疾患 不整脈②、心不全	
8	整形外科疾患、脊椎疾患④		23	循環器疾患 心臓疾患(弁膜症)①	
9	整形外科疾患、脊椎疾患⑤、その他①		24	循環器疾患 心臓疾患(弁膜症)②	
10	整形外科疾患、その他②、筋・腱疾患①		25	循環器疾患 心臓疾患(弁膜症)③	
11	整形外科疾患、筋・腱疾患②、骨代謝疾患・骨腫瘍①		26	血液・造血器疾患 赤血球疾患①	
12	整形外科疾患、骨代謝疾患・骨腫瘍②、外傷①		27	血液・造血器疾患 赤血球疾患② 白血球疾患	
13	整形外科疾患、外傷②		28	血液・造血器疾患 リンパ網内皮系、出血性素因、まとめ	
14	前期試験		29	中期試験	
15	試験返却、解答解説		30	試験返却、解答解説	
教科書参考書等		臨床医学各論 I 東洋療法学校協会編			
評価方法		前期、中期各期定期試験を行う。臨床医学各論授業の各試験の評価を合計/2で評価する			
成績評価指標		<p>1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。</p> <p>2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。</p> <p>(1)A:90~100点 (2)B:80~89点 (3)C:70~79点 (4)D:60~69点 (5)F:60点未満</p>			

2023年度 昼間部

科目		東洋医学概論			
科目分野	専門 分野	学期	前 中 期		
学年	2 年次	担当教員	小俣 文華		
単位数	2 単位		実務経験	治療院経営2年	
【授業の概要】 授業形態 講 義					
国家試験を受験する上で必要な東洋医学の基本的知識を修得するために、東洋医学の基本的理念について概説する。					
【到達目標】					
東洋医学の基本思想、人体の生理・病理、診察・診断法を理解する。					
回	授業計画		回	授業計画	
1	東洋医学の基礎知識		16	肝・心系統の病証	
2	陰陽学説		17	脾系統の病証	
3	五行学説		18	肺・腎系統の病証	
4	精の生理・病理		19	五臓の相互関係/全身の気機	
5	気の生理・病理		20	望診	
6	血の生理・病理		21	聞診	
7	津液の生理・病理		22	問診 主訴・基本的問診事項	
8	神の生理・病理		23	問診 その他の問診事項	
9	臓腑・肝系統の生理・病理		24	切診 反応・腹診	
10	心・脾系統の生理・病理		25	切診 切経	
11	肺・腎系統、三焦の生理・病理		26	八綱弁証	
12	六腑の生理・病理		27	臓腑弁証	
13	経絡・病因病機		28	弁証の進め方と証の決定	
14	前期試験		29	中期試験	
15	答案返却・解説／前期まとめ		30	答案返却・解説／中期まとめ	
教科書 参考書等		東洋療法学校協会編 新版 東洋医学概論 医道の日本社 配布プリント			
評価方法		前期試験と中期試験で評価する。 各期における評価が60点以上で単位を認定する。			
成績評価指標		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満			

2023年度 昼間部

科目		病理学			
科目分野	専門基礎 分野	学期	前中 期		
学年	2 年次	担当教員	富山 好美		
単位数	2 単位		実務経験		
【授業の概要】 授業形態 講義					
<p>生理学、解剖学を基礎として、病気の成り立ちと分類について学ぶ。 各章においては、基本的な用語の意味・定義、代表的な疾患について概説する。 臨床医学総論、臨床医学各論で学ぶ疾患を理解するためには、病理学の知識が必要である。</p>					
【到達目標】					
<p>1) 病理学の基本的な用語の意味・定義を説明することができる。 2) 各項目に疾患を分類することができる。 3) 疾患の発生機序を説明することができる。</p>					
回	授業計画		回	授業計画	
1	第1章 病理学とはどのような学問か 第2章 疾病についての基本的な考え方①		16	第6章 進行性病変(1. 肥大と増殖、2. 再生、3. 化生)	
2	第4章 循環障害(1. ヒトの循環系、2. 充血・うっ血)		17	第5章 退行性病変(1. 萎縮、3. 壊死と死③)	
3	第4章 循環障害(4. 出血)		18	第5章 退行性病変(2. 変性①)	
4	第4章 循環障害(5. 血栓症、6. 塞栓症)		19	第5章 退行性病変(2. 変性②)	
5	第4章 循環障害(3. 貧血・虚血、7. 梗塞) 第5章 退行性病変(3. 壊死と死①)		20	第8章 腫瘍(1. 腫瘍の一般①)	
6	第4章 循環障害(8. 水腫・浮腫・脱水症)		21	第8章 腫瘍(1. 腫瘍の一般②、2. 良性腫瘍、3. 悪性腫瘍)	
7	第9章 免疫異常・アレルギー(1. 液性免疫と細胞性免疫)		22	第8章 腫瘍(1. 腫瘍の一般③)	
8	第4章 循環障害(9. ショック) 第9章 免疫異常 ・アレルギー(2. アレルギー①、4. 自己免疫異常)		23	第8章 腫瘍(1. 腫瘍の一般④) 第3章 病因(2. 内因①)	
9	第9章 免疫異常・アレルギー(2. アレルギー②、3. 免疫不全)		24	第10章 先天性異常(2. 遺伝性疾患、3. 染色体異常)	
10	第7章 炎症(1. 炎症の一般) 第6章 進行性病変(5. 創傷治癒・組織内異物の処理①)		25	第10章 先天性異常(1. 先天性異常総論) 第3章 病因(2. 内因②)	
11	第7章 炎症(2. 炎症の分類①)		26	第3章 病因(2. 内因③、3. 外因①)	
12	第7章 炎症(2. 炎症の分類②)		27	第3章 病因(3. 外因②)	
13	第6章 進行性病変(4. 移植、5. 創傷治癒・組織内異物の処理②) 第5章 退行性病変(3. 壊死と死②)		28	第3章 病因(3. 外因③) 第2章 疾病についての基本的な考え方②	
14	前期試験		29	中期試験	
15	試験返却、解答・解説		30	試験返却、解答・解説	
教科書 参考書等		病理学概論 第2版			
評価方法		前期試験及び中期試験を合計して評価する。 各期における評価が60点以上で単位を認定する。			
成績評価指標		<p>1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A: 90～100点 (2)B: 80～89点 (3)C: 70～79点 (4)D: 60～69点 (5)F: 60点未満</p>			

2023年 昼間部

科目		臨床医学各論 I			
科目分野	分野	学期	前中期		
学年	2 年次	担当教員	辻村 信浩		
単位数	単位		鍼灸あまし 免許30年治療院28年講師25年		
【授業の概要】 授業形態 講義					
医療類似行為者として必要な疾患の成り立ち(原因、症状、検査方法、など)を学習する。 国家試験出題基準に準じ進める。					
【到達目標】					
医療類似行為者として必要な病気の「かたち」を理解し、実践時に患者の症状の原因や相談に対応できる能力を身に着ける。					
回	授業計画		回	授業計画	
1	授業内容説明 大項目1. 感染症 A. 感染と病態		16	C. 胃疾患 b、c、d、e、f、g	
2	B. 細菌感染症 a、b、c、		17	D. 腸疾患 a、b、d、e、f	
3	" d、e、f C. ウイルス感染症 a		18	" g、h、i、j、k、l	
4	" b、c、d、e、g		19	E. 肝臓疾患 a、b、c、d、e、g、h、i、j	
5	" h、i、j、k		20	F. 胆道疾患 a、b、c、d、e、G. 膵臓疾患 a	
6	" l、m、n、o		21	" b、c 大項目6腎疾患 A糸球体疾患 a、b	
7	D. その他 a、b、c、d、e		22	" c、d、B. 腎疾患 a、b、	
8	大項目3. 呼吸器 A. 感染性肺疾患 a、b、c、d、e		23	C. 感染症 a、b、c、D. 腫瘍性疾患 a、b、	
9	B. 気道閉塞性疾患 C. アレルギー性疾患		24	E. 結石症. a、b、 排尿機能障害 a、b、c、d	
10	D. 全身疾患に… E. 間質性肺疾患 F. 腫瘍性疾患a		25	G. ♂生殖器 a、b、c、d、 H. ♀生殖器 a、b、c、d、 e、f	
11	" b、c、 G. その他 a、b、c、d		26	大項目9. 内分泌 A. 下垂体疾患 a、b、c、d	
12	" e、f、 大項目5. 消化器疾患 A. 口腔疾患 a、b		27	B. 甲状腺・副甲状腺 a、b、c、d、e、f	
13	B. 食道疾患 a、b、c、d		28	C. 副腎 a、b、c、d、 D. 膵内分泌 a、b、c	
14	予備日 前期試験		29	予備日 後期試験	
15	試験解説 C. 胃疾患 a		30	試験解説 予備日	
教科書 参考書等	臨床医学各論(東洋療法学校協会編)教科書、2021年追加資料、配布プリント				
評価方法	定期試験				
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A: 90~100点 (2)B: 80~89点 (3)C: 70~79点 (4)D: 60~69点 (5)F: 60点未満				

2023年 昼間部

科目		臨床医学総論	
科目分野	専門基礎 分野	学期	前中 期
学年	2 年次	担当教員	黒沢 純一
単位数	2 単位		実務経験 23年
【授業の概要】 授業形態 講義			
<p>患者を理解し、正しく診断して適切な施術を行う上で必要なことは、医療面接から始まり、入念な身体診察を行うことが大切である。適切な診察法を理解し、主たる症候に精通していくために学んでいきましょう。</p>			
【到達目標】			
<p>臨床医学総論は、診察診断学である。患者の持っている所見、特異的症状などを視覚、触覚、聴覚、嗅覚を使い適切に判断する力を身につけることを目標としましょう。</p>			
回	授業計画	回	授業計画
1	第1章 診察の概要	16	第5章 局所の診察
2	第2章 診察の方法	17	第5章 局所の診察
3	第3章 バイタルサインの診察	18	第5章 局所の診察
4	第3章 バイタルサインの診察	19	第5章 局所の診察
5	第3章 バイタルサインの診察	20	第5章 局所の診察
6	第4章 全身の診察	21	第5章 局所の診察
7	第4章 全身の診察	22	中期中間試験
8	前期中間試験	23	試験返却 第6章 神経系の診察
9	試験返却 第4章 全身の診察	24	第6章 神経系の診察
10	第4章 全身の診察	25	第6章 神経系の診察
11	第4章 全身の診察	26	第7章 運動機能検査
12	第4章 全身の診察	27	第7章 運動機能検査
13	第4章 全身の診察	28	第9章 臨床検査法
14	前期期末試験	29	中期期末試験
15	試験返却 第5章 局所の診察	30	試験返却 第9章 臨床検査法
教科書 参考書等	<p>・基本的にプリントを使用し、授業を進める。 臨床医学総論(第2版)公益社団法人 東洋療法学校協会編 奈良信雄著(参考図書)</p>		
評価方法	<p>前期、中期各期に中間試験、期末試験を行い、各試験の平均点数を以て評価する。 各期における評価が60点以上で単位を認定する。</p>		
成績評価指標	<p>1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90~100点 (2)B:80~89点 (3)C:70~79点 (4)D:60~69点 (5)F:60点未満</p>		

2023年 昼間部

科目		臨床指圧総論Ⅱ			
科目分野	専門 分野	学期	前中 期		
学年	2 年次	担当教員	浪越 雄二・高橋 雄輔		
単位数	2 単位		実務経験	治療院勤務32年治療院勤務19年	
【授業の概要】 授業形態 実技					
1年で学習した基本指圧をふまえ、施術部位あるいは施術対象筋についての応用指圧操作を学習する。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・臨床で使う応用操作ができる。 ・正確な圧点を指圧することができる。 					
回	授業計画		回	授業計画	
1	伏臥位の基本指圧		16	伏臥位の基本指圧	
2	横臥位の基本指圧		17	横臥位の基本指圧	
3	ポイント指導		18	全身指圧 8	
4	治療台での施術 1 伏臥位		19	治療台での施術 5 横臥位	
5	治療台での施術 3 横臥位		20	ポイント指導	
6	仰臥位		21	伏臥位	
7	ポイント指導		22	治療台での施術 7 全身指圧	
8	伏臥位		23	ポイント指導	
9	横臥位		24	伏臥位	
10	全身指圧 4		25	仰臥位	
11	ポイント指導		26	ポイント指導	
12	試験前復習		27	試験前復習	
13	試験		28	試験	
14	試験		29	試験	
15	全身指圧 5		30	全身指圧 9	
教科書 参考書等		指圧療法学(国際医学出版)			
評価方法		実技試験、授業中の態度、出席状況の評価、欠席5点、遅刻・早退・見学2点			
成績評価指標		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満			

科目		東洋医学臨床論 I			
科目分野	専門 分野	学期	後 期		
学 年	2 年次	担当教員	黒沢 純一		
単位数	1 単位		実務経験	23年	
【授業の概要】 授業形態 講義					
前期中期で学んだ「東洋医学概論」「経絡経穴概論」の東洋医学的思想を元に、東洋医学を臨床的に適切に用いることができるよう学びましょう。					
【到達目標】					
気血津液弁証や、経絡弁証を学び、3年次に始まる臨床実習で役立つ知識を身につけましょう。					
回	授業計画		回	授業計画	
1	気血津液弁証①		16		
2	気血津液弁証②		17		
3	経絡弁証①		18		
4	経絡弁証②		19		
5	要穴 経絡経穴と現代医学的研究		20		
6	後期末試験		21		
7	試験返却 解説		22		
8			23		
9			24		
10			25		
11			26		
12			27		
13			28		
14			29		
15			30		
教科書 参考書等		<ul style="list-style-type: none"> ・基本的にプリントを用いて授業を進める。 ・新版 東洋医学概論 公益社団法人 東洋療法学校協会編 新版 経絡経穴概論 公益社団法人 東洋療法学校協会編 			
評価方法		後期末試験の点数を元に評価をする。			
成績評価指標		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満			

2023年度 昼間部

科目		臨床指圧各論Ⅰ	
科目分野	専門 分野	学期	後 期
学 年	2 年次	担当教員	大木 慎平(治療院経営6年)
単位数	1 単位		青木 美稚子(治療院経営5年以上)
【授業の概要】 授業形態 実技			
臨床実習関連科目で身につけた知識、技術をベースに、疾患に応じた施術の方法を学ぶ。			
【到達目標】			
症状改善の鍵となる解剖学的構造へスムーズにアプローチすることができる。			
回	授業計画	回	授業計画
1	肩の構造と疾患①	16	
2	肩の構造と疾患②	17	
3	頸部の構造と疾患	18	
4	肘・手首の構造と疾患	19	
5	腰背部の構造と疾患	20	
6	臀部の構造と疾患	21	
7	下肢の構造と疾患①	22	
8	下肢の構造と疾患②	23	
9		24	
10		25	
11		26	
12		27	
13		28	
14		29	
15		30	
教科書 参考書等	適宜、必要資料を配布する。		
評価方法	授業への取り組み、出席状況を総合して評価する。 欠席は5点、遅刻早退は3点減ずる。		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満		

2023年度 昼間部

科目		臨床実習 I	
科目分野	専門 分野	学期	中期
学年	2 年次	担当教員	石塚 洋之、高橋 雄輔
単位数	1 単位		実務経験 開業3年、治療院勤務19年
【授業の概要】 授業形態 実技			
臨床に必要な問診・検査・評価・施術・記録について総合的に学びます。特に患者の状態を適切に評価することを主目的に実習を進めます。			
【到達目標】			
患者に対して適切な評価を行えることを目標とする。			
回	授業計画	回	授業計画
1	医療面接	16	
2	肩の評価 ①	17	
3	肩の評価 ②	18	
4	頸の評価 ①	19	
5	頸の評価 ②	20	
6	腰の評価 ①	21	
7	腰の評価 ②	22	
8	膝の評価 ①	23	
9	膝の評価 ②	24	
10	施術録について	25	
11	ロールプレイ ①	26	
12	ロールプレイ ②	27	
13	施術録作成	28	
14	試験	29	
15	予備日	30	
教科書 参考書等	必要な資料を適宜配布する。		
評価方法	試験結果および出欠席や授業態度などの平常点により総合的に判断する。		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満		

2023年度 昼間部

科目		臨床実習前講習	
科目分野	専門 分野	学期	中期
学年	2 年次	担当教員	久坂 健太
単位数	1 単位		実務経験 1年
【授業の概要】 授業形態 実技			
臨床実習に入る前に、各科目で学んだ検査法などの知識、技術を整理し、整形外科的徒手検査法などの技術を修得し、実習の流れを事前に確認していく。			
【到達目標】			
整形外科的徒手検査法を習得し、症候に合わせた適切な運用ができる。 臨床実習の流れを理解する。			
回	授業計画	回	授業計画
1	検査法 肩関節①	16	
2	検査法 肩関節②	17	
3	検査法 頸肩腕①	18	
4	検査法 頸肩腕②	19	
5	復習 上肢	20	
6	検査法 腰下肢①	21	
7	検査法 腰下肢②	22	
8	検査法 膝関節①	23	
9	検査法 膝関節②	24	
10	復習 下肢	25	
11	ロールプレイ	26	
12	ロールプレイ	27	
13	試験	28	
14	試験	29	
15	予備日	30	
教科書 参考書等	必要な資料を適宜配布する。		
評価方法	試験結果および出欠席や授業態度などの平常点により総合的に判断する。		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満		